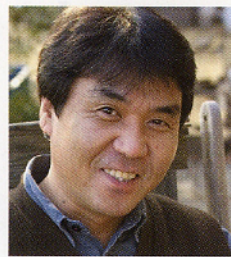


日本の色● 柿渋色(かきしぶいろ):柿の渋のものはタンニンで防水性に優れている。和紙に塗ると水に強くなるため、傘などの用途に使えるようになる。



Tetsuya Nagata

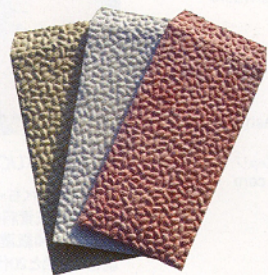
永田哲也(ながた・てつや)氏
1985年東京芸術大学大学院美術研究科構成デザイン修了。共立女子大学、千葉工業大学講師。素材と形をキーワードに「もの表と裏」「時間と空間」をかたどるアーティスト。楳(こうぞ)100%の和紙による実用的な作品を提案する。

和紙の小物を使ってみよう

「和紙を活用したい」と思ったらまず実物を見てみよう。和菓子の型を使った永田氏の作品は東京・銀座の伊東屋「ITO-YA3」などで扱っている。水で濡らした和紙を、和菓子の木型に何枚も丹念に押しつけて作った手作りのアート作品だ。こごぞという時に使ってほしい。このほか、名刺、紙ばさみなど、ビジネスに使える和紙製品は意外と多い。

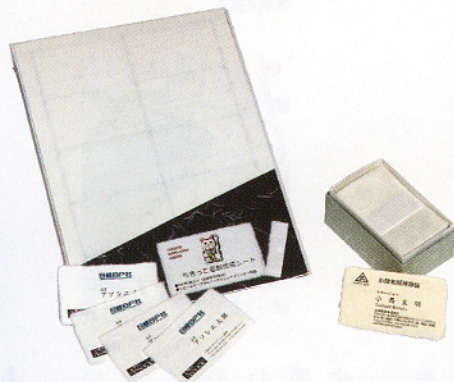
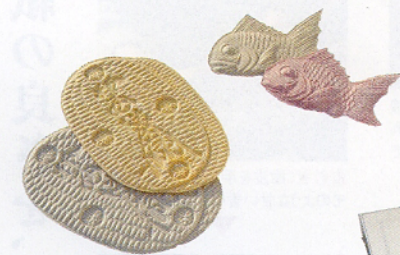


▲備長炭入り大黒様、恵比寿様:デスクの上、会社の受付など、好みの場所に置ける小物。備長炭が入っているので消臭効果もある。



▲米粒型の模様つき封筒:五穀豊穡への願いは、ビジネスの成功への祈りにつながる。まさに米菓子という手触りも、受け取った人に喜んでもらえるはずだ。封筒以外にポチ袋も充実している。

▲貨幣型、鯛型のメッセージカード:金貨、銀貨、鯛などおめでたい形をかたどってある。裏の平らな面に文章などを書き、企画書や贈り物に添えれば目立つこと間違いなしだ。



▲綴帳:和紙を糸で綴じたノート。スタンプやワインラベルの取集帳などに使う人が多い。和紙は水に強く、昔の商家は火事の際に大福帳を井戸に投じてこれを守ったという。

▲和紙製名刺:自作するなら、杉原商店「ちぎって名刺作成シート」(プリンター対応)がお薦め(左)。また好みの名刺用和紙を持っていけば有料で印刷してくれる店もある(右)。例えば東京・日本橋の小津和紙博物館では各種和紙も選べ、営業日、中10~14日で100枚から受け付けている。

▲紙挟み:茨城県の「紙のさと」で入手した紙挟み。A4用紙がラクらく入る。色は青、緑のほか、赤など様々あり、模様も多彩だ。

106ページの企画書カバー:樹齢1000年以上の屋久杉をかたどった、今回特別に作ってもらったものだ。ビジネスの会議に持参すれば、1000年とは言わないまでも「長きにわたり、あなたとビジネスをしたい!」という気持ちを強烈にアピールできるだろう。表には和菓子の木型で作った鯛をつけた。海外の人には「日本ではめでたい席で鯛を食す」と説明すれば話は盛り上がるに違いない。裏にメッセージを書いて読んでもらうのもいいだろう。こんな仕掛けはこのセンスを理解してくれる相手にこそ効果を発揮する。

和紙だからこそ表現できる温もり

思わず手が出る企画書に

食の業界で活躍している知人がふと胸元から取り出したポチ袋に、筆者の目は釘づけになってしまった。おいしそうな鯛がついた見たことのないものだったからだ。

これはアーティストの永田哲也氏が和紙を和菓子の木型に押しつけて創り出した作品である。立体造形にこだわる永田氏は「粘土などの数々の素材を使っていたが、和紙に出合ってからもう迷いがなくなった」と言う。濡らせば自在に形を変えられ、乾けば独特の風合いを醸し出す和紙を使い、実用的なアートを生んでいる。

和紙は一見するとビジネスの世界からは程遠く、懐古趣味に近いものと思われがちだが、実は日本人が自信を持って語れ、ビジネスにも活用できる素材である。

今回は永田氏に頼み、「大事なビジネスミーティングで使える、相手の度肝を抜く企画書カバー」を創ってもらった。プレゼン冒頭でこれを出せば話が膨らみ、自分のベールで話ができるはず…。いやで

連載第十回 比類なき日本の素材

和紙をビジネスに生かす

真の国際化とは自分の国を知ること。和紙は器用な日本人が創り出し、生活全般に使ってきた誇るべき紙だ。今日、ビジネスに使える様々な強みも持っている。

渡辺幸裕(案内人)・文

ten by Yukio Watanabe

寺尾豊、ヒロタコウキ、渡辺慎一郎・写真

Photographs by Yutaka Teruo, Koki Hirota, Shinichiro Watanabe



やまと
日本の紙

さらに深める参考情報…

【書籍】

『おるー基本から応用まで』
(学研編集部編、学習研究社)
『手漉き和紙一暮らしを彩る和のこころ』
(柳橋 眞監督、講談社)
『紙と日本文化』NHKブックス
(町田誠之著、NHK出版)

【ウェブサイト】

和紙のある暮らし
http://www.kippo.or.jp/culture/washi/
全国手漉き和紙連合会
http://www.tesukiwashi.jp/
小津和紙博物館
http://www.ozuwashi.net/
和紙リンク集
http://www.washiya.com/washinomo
kuji/
会員制有料サイト ジャパン・ナレッジ
http://www.japanknowledge.com

【告知】

日本かぶれの会 和紙講座

1月にリニューアルした小津和紙博物館で和紙について学びます。永田哲也氏が語る和紙の魅力、和紙漉き体験、国内の様々な和紙の紹介など、和紙初心者にとって第一歩を踏み出す好機です。
日時：2月10日(木) 19:00~21:00
会場：小津和紙博物館
東京都中央区日本橋本町3-6-2
募集人数：10人
参加実費：3000円
(会場費、演者への謝礼、紙漉き体験費)
締め切り：2月4日(金)
応募方法：http://nba.nikkeibp.co.jp/yamato10/で必要事項をご入力ください。
発表：参加者に直接ご連絡します。
問い合わせ先：info-nba@nikkeibp.co.jp

—冬の小旅行に行く—

通常より袖丈の短い筒袖(つつそで)の着物は、陣羽織を合わせた動きやすいコーディネート。石の飾りがついた羽織紐でカジュアルな美しさを加えた。
(渡辺幸裕)



着物は袖に絞り染め。軽くて着崩れにくい。軽快な半幅帯を「矢の字」に結んでいるので列車のシートにも寄りかかれる。
(間瀬まゆみさん=読者、弁護士)
着物撮影協力/銀座もとじ 女性撮影/乾 芳江

案内人・文

渡辺幸裕(わたなべ・ゆきひろ)
ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独立を機にビジネス・パーソン向けに日本文化超初心者会「和・倶楽部」を提唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。

和紙がでるまで

木材のパルプから作る洋紙に対し、和紙は楮(こうぞ)、三桧(みつまた)、雁皮(がんび)などの植物から作られる。洋紙は約100年で黄ばんでしまうが、平安時代に使われた和紙がしっかり保存されていることがある。この差は傷みにくいという和紙の原料によるものが大きい。



Seiki Kikuchi

菊池正氣(きくち・せいき)氏
西の内和紙資料館 紙のさと代表。和紙漉き3代目。現在は、弟と20代の息子とともに紙を漉いている。



繊維にする:これを乾燥させる。その後、煮て、さらし、洗い、叩き、繊維をほぐす。



漉く:トロロアオイという植物の粘液を加え、数段階を経た後、槽に入れて水を加えて漉く。漉いた紙は積んで水気を絞る。



紙を干す:紙を1枚ずつ板に張って乾かす。



原料:今回見たのは楮を使った和紙作り。冬、1歳の若い枝を刈り取って蒸す。写真はまだ小さいもの。根が浅く張るとして特性を生かし、畑の土留めとして植えられてきた。



皮むき:樹皮を手でむく。サツマイモのような甘い香りが特徴。



さらに皮をむく:樹皮をさらにむき、黄色みがかった繊維を残す。

日本文化を支えてきた和紙の良さを、今使ってみる

和紙は日本が誇れる技術

和紙の歴史は古い。奈良時代には全国に普及し、優れた品質に発展した。活版印刷技術の普及とともに江戸文学を支え、浮世絵版画も和紙なしでは存在しなかった。単に書くものとしてだけではない。室町時代からは和紙を折り、その形に意味をつける「折形」と呼ばれる文化も生んだ。また「日本の家は木と紙でできている」と言われるように建築にとつて重要な要素で、開国後、西洋人を驚愕させることにもなった。

その西ノ内和紙を漉いて3代目、菊池正氣氏に和紙作りの工程を取材した。詳しくは上に記す。ちなみに西ノ内和紙は水戸光圀が『大日本史』に使った紙でもある。明治以後の洋紙流入や生活様式の変化により、現在、和紙の用途の多くは残念ながら伝統工芸品用の域を出ない。だが、だからこそその強靱さ、優美さ、耐久性が世界中から賛嘆されていることを再認識してほしい。

永田氏は和紙の中でも成形のしやすいことから「西ノ内の那須楮こそ超一流」と評価する。北茨城で、

アソシエ読者のような次代を担うビジネスパーソンなら、永田氏の作品のように日本の良さをビジネスに活用する工夫ができるはずだ。日本の誇る素材を、自分の強みにしてほしい。